

2020年代熊谷、来るべきパパライフ

2020s Kumagaya the life of papa to come

6月第3日曜、2020年は21日が父の日だ。コロナ禍による外出自粛や在宅ワークの推進でおうち時間が長くなり、今後の社会、家族、そして「父親＝パパ」のあり方も変わっていくだろう。そんな「2020年代熊谷、来るべきパパライフ」を考えた。(取材・文 小林 真)



画:佐通真由美(熊谷市在住)

平安のレジェンドから学ぶ 令和のパパのかたち

2020年代パパ像なのに800年以上さかのぼる。熊谷史上も「ジェンドなパパ、われらが熊谷次郎直実」「平家物語」「敦盛最期」を思い出す。父親としての直実を、熊谷歌舞伎の会代表で直実の妻相模を演じたこともある長島利夫さんに聞いた。

坂東一の剛の者が、若武者の首をはねなければならぬ武士の世の無情を悟り仏門に入る。「2歳で父親に死なれ叔父に育てられた直実は、自立心が強かったと推測します。」「逆馬」*1のような愚直さには、その生い立ちがあつたのではないでしょう。ちなみにわたしも20歳の時に父親を亡くしています。無骨、愚直、自立心と情の深さ。これらは熊谷パパの原型かも知れない。たとえば元熊谷工業フグビー部の名将森善雄さんはじめ、「おやじ」と呼ばれることの多かった昭和の運動部監督のイメージだ。長島さんは1951(昭和26)年早生まれ。誕生日がほぼ1か月違いの俳優中村雅俊さんは、平成初期の「理想のパパランキング」*2一位だった*3。長島さんも1979年、長男誕生でパパになっている。 「イクメン」ということばはなかったけれど、男が家庭のことをやるのに抵抗はなくなってきた時代ですね。そして平成終盤2018年。「理想のパパランキング」*1一位は、5児を育て、手づくり弁当をブログで公開するつるの剛士さん*2になる。人生の自由化・多様化が進み結婚するしないも個人任せ、ひとり暮らしが最多で人口は激減し、誰もがはたらくても家計は停滞、非正規型の働き方が増えた平成31年間*4。大震災や平成不況、リーマン・ショックを経く、熊谷のまち、つひとつこの家庭も大きく変化した。

社会の中での「パパ」の変化は誰もが初体験。オンジヨブトレーニングで学ぶしかない。 Web、紙媒体の情報メディア「KUMAGAYA LIFE」を展開する柿沼博基さん。地域の親から子育てエッセイを集めて掲載する。 「いまの理想のパパは非常にレベルが高い。理想のパパ・ママを追いかけられるのではなく、いろんなかたちがあると思います。自分つてダメだなと思わず、等身大の自分にできる範囲で無理をしないこと。パートナーに、苦手なことは苦手だよ」

メンなさいとしつかり伝えることが大事かな、と思います。塩梅は本当に難しく、休み、収入、性格、年齢などなど十人十色なので、絶対に隣の芝生は見えない。 「〇〇さん家は：」は不毛な地雷原です。と書いて嫁に見せたら二応、「いいんじゃないー」いただきました(笑) 無理をしない等身大は、パパ業だけでなく21世紀のキーワードになっている。 ただ「いる」ことの大切さが 経験できたコロナの時間から

多様化、縮小化の時代に適応する柔軟性、子ども・家族や社会と十分に「コミュニケーション」能力が求められるといえそう。そして、「自然体」。そう、武士の世界から仏門に転身した直実・蓮生はこうしたパパ像の先駆者だし、54歳で熊谷市役所を退職して学生時代に親しんだ落語や興味のあつた歌舞伎、市民活動や地元妻沼の地域活動に生活の中心を移した歌舞伎の会の長島さんはその継承者だ。長島さんは、「子どもに『いい格好』をしよう」と力まないで、楽しくやつてる姿を見れば良い

好アクセス、タイトルでなく スキル、等身大の自分： 現役パパの提案

ここからは3人の現役熊谷パパに聞いた。2020年以降の生き方を紹介しよう。 まず、都内で経営する司法書士事務所に新幹線通勤する中3女子のパパ、曙町の木藤正義さん。 「お金はかかりませんが、快適な通勤で熊谷のアクセスの良さに感謝しています。週末は地元で楽しく過ごしていますね。子ども会では地域の小学生とカルタなどで遊び、校区連絡会では人生の先輩方と自宅近い万平公園を中心に郷土史の勉強、また同世代のお父さんたちとは飲み会で交流しています。緊急事態宣言中は活動自粛でしたが、これからも熊谷ライフをエンジョイしたいですね」



「パパも平成までの家事育児の『手伝い』ではなく、自分たちの『仕事』と言いつつ、父親という社会的役割は、タイトルだけでなくスキル。現場での実践、つまり、「上司、同僚、部下、通勤客」の時間が少なくなるっていうことで、それを負担と思つたか、チャレンジに値するチャンスだと思つたかでしょう」

1.「嘶家笑蔵」こと長島さん。介護者サロンでの正月公演は定番だ
2.木藤さんの本は「ふつうの子」なんてどこにもない(木村泰子著)
3.奥野さん。熊谷の親子写真の定番うちわ祭り(2020年中止)が決まっている
4.得意技は「子どもの寝かしつけ」という柿沼さん

お父さんへ感謝のメッセージ

父は100歳。今は施設に入っています。父に会いに行つたときは、近くの公園にお散歩に行き車椅子で体操して、その後大好きな甘いお菓子を二人で食べ、沢山話をして帰ってきます。父も外の風を感じ、本当に楽しひと時です。でも、今はコロナで父に会えません。認知症の為、私の事を子供だと分らない時もあり、父は私が会いに行かない事を分かっているのかうとう感じて居るのか？もしかして寂しいと思つているのでは？と思うと切なくなります。もっ少し待ってね。すぐに会いに行かかね。美味いお菓子を持って。(石原・T/Mさん)

お父さん。10年前お母さんと夫と4人で初めての海外旅行北京に行つてきましたね。その時夏土の土産だねって言つていた私。その後癌が見つかり1年後に逝つてしまいました。体しんどかつたのに来てくれたありがとう。(石原・さくちゃん・64歳)

あなたの大事な大事なわい孫は、もう中3の受験生になりました。勉強も運動も頑張る心優しい子に育つてほしいよ！

おはあちゃんとも仲良しだよ！もう会えなくて淋しいけど、見守つてくれてありがとう、お父さん!! (桜町・にゃんする・43歳)

熊谷を愛す父。地域のひとを愛す父。桜を愛す父。プラック・ミニジックを愛す父。うちわ祭を愛す父。どんな父も尊敬大好きです。(箱田・みことより・3歳)

あなたを愛す父。地域のひとを愛す父。桜を愛す父。プラック・ミニジックを愛す父。うちわ祭を愛す父。どんな父も尊敬大好きです。(箱田・みことより・3歳)

父。いつも些細なことで口論してお互い素直になれないことが多いですが、見守ってくれてありがとう。今後よろしくお願ひします。(原島・海・25歳)

お父さん、まだまだ元気に長生きしてくださいね。(筑波・Y/R・57歳)

晩年、身体が弱り、入退院を繰り返してた父。付き添いをしていて苦しい看護師さんたちが気軽に声をかけてくれた。父も楽しそうだった。今、「コロナの時、父の人生の最後のひとときを共に過ごすことが出来た幸せを感じる。(小曾根・ヒロ・64歳)

仕事会社、家庭、地域という従来のパパの活動範囲のうち、コロナ以降は家庭、地域の比率が高まるのは間違いないだろう。複雑化が進むことも確実だ。 一方でわたしたちはよりよき社会の名のもとに、おもな構成員で世の担い手であるパパ世代に大きな負担をかけていないだろうか。 長い勤務時間に通勤時間、家では家事にPTA、地域活動…。昭和生まれのわたしたちの親世代よりはるかに忙しい、と感じることは多い。

一人ひとりが意識を変えつつ考えていく。そうするしかない。 その意味で、何かするより、まずはただ「いる」ことの大切さが経験できた「コロナ」の時間は小さくない。数年前の父の日のアンケートでは、父親に期待する役割1位は「精神的な支え」という結果が出ている*5。 「来るべきパパ」をつくるのは、パパママだけではない。そこに生きるすべての人だ。今年57歳になるわたしも、今年4歳になる息子がいる。 みんないっしょにがんばれること、 みんないっしょでないと許せない人たちがいること。これも「コロナ」から学ぶことがある。学ぶことがあると知れば、先の時代も明るい。

災害の少ない熊谷に大きなショックだった昨年の台風19号。その困ったことを共有しようという人々が集まった*6。その中で障がい児と自宅で不安な時間を過ごした母親の発言は、福祉避難所の実際とともに参加者に課題の大きさを感ぜさせた。 「わたしたちの夫は仕事や地域活動、ボランティアをやつて居る方が多く、このうう災害の時にうちにいることが多いんです。そんな時、動けない子どもとわたしだけで家にいなきゃならないのはたまらなく心細い。災害時に頼れる大黒柱がいないのは、幼い子どもや高齢者を抱えている家庭も同じではないでしょうか」 こうした課題はわたしたちが、社会をより安全にしよつとして居る営みと表裏一体だから難しい。まじめに社会に向き合う人ほど陥る課題だし、家庭だけでは決して解決できないし、制度からアプローチが主な自治体でも困難だ。

*1 出された連生法師が京都で修業中、故郷熊谷へ帰ることになった。その時は、釈迦がいる西の方に尻を向けられないと、馬の鞍を前後反対に寄せ逆さまに乗ったまま帰つたというエピソード。
*2 月刊「ナショナルな社会」from Benesse 25年前と比べて「ママ」の意識はどうか変化した? から、1993年と2018年のランキングより
*3 データで読む「平成」の変化「生活者」は「平穏でなかつた」博報堂生活総合研究所(2019年3月)と同資料を引用した日経BPのデータを参考。
*4 みんなで集まつて5分で本を紹介。そして、読みたくなつた本「1チャンネル」を投票して決定する、スポーツのような書評会(公式サイトより)
*5 地域の枠を超えた情報共有の機会を持つため11月16日に市民活動支援センターで開催
*6 2016年、株式会社マクロミルの「父の日アンケート」より